

第Ⅰ部を教養のために楽しみながら読み、第Ⅱ部ではしっかりと基礎を勉強し、第Ⅲ部は第Ⅱ部で習得した分析道具の応用として読み込む。それが編者の推奨する本書の読み方です。

また、本書では、分析に役立つ場合には躊躇することなく数学を使っています。数式の入った章は、最初はとっつきにくく感じるかもしれませんが、しかし、自分の手を使って計算を確認しながら読み進むうちに、数学で表現できることは数学で表現する方がはるかにわかりやすく簡単であることに気づくはずで、ほかの参考書や教科書に頼ることなく読破できるように、脚注や付録における説明や計算の展開を充実させています。ゆっくりでかまいませんので、手を動かして計算しながら、考え方を身につけてください。

## 本書の読み方

### 1. 第Ⅰ部

まず、第Ⅰ部の三つの章を読んで、国と時代によって異なる経済制度、企業によって異なる組織を比較する視点を学んでください。第Ⅰ部の各章は本書全体の前提となる視点を提供するとともに、本書で学ぶ道具を使って世の中を概観しています。わかりにくいところがあっても気にせず、まずは通読してください。最初は疑問が残ったとしても、第Ⅱ部を学習した上でもう一度読み返せば納得がいくでしょう。

### 2. 第Ⅱ部

第Ⅱ部の第4章（ゲーム理論の基礎）、第5章（契約理論の基礎）、第6章（契約理論の応用）は本書を読み込むための基礎的な道具立てを解説しています。第Ⅱ部の各章は、1行も疑問の余地が残らないように、しっかりと厳密に読んでください。計算が出てくる箇所では、紙を用意して、必ず自分で再計算し、本文に載っている結果を導いてください。

数学も使われていますが、高等学校数学Ⅱ（文系数学）を超える内容については必ず脚注か付録で解説されているほか、数学Ⅱの範囲内であっても、適宜、解説を付け加えています。1行1行、着実に計算を追って理解を深めてください。

一つの章を読み終えたら、練習問題を解いてください。初めて挑戦した時に解けなくても気にする必要は全くありません。解答例を見ながら理解できれば十分です。大切なことは、問題と解答例を繰り返し読み、書き写して、問題を見たら自然に手が動いて解答できるところまで、解法を頭と身体になじませることです。今日、解けなかった問題の解答例を理解して書き写し、翌日、また挑戦する。すぐに出てこなかったらまた書き写してさらにその翌日に挑戦する。そんな感じです。職人芸もスポーツも学問も同じです。身体になじんで無意識に動けるところまで身につけないと、実戦の役に立ちません。

繰り返しますが、第Ⅱ部は現実社会を観察するために必要な最小限の内容を厳選して編集されています。3章全て必修です。第Ⅱ部の理解に曖昧なところが残っている限り、本書を「読んだ」ことにはなりません。

### 3. 第Ⅲ部

第Ⅲ部の各章は第Ⅱ部で学んだ道具を使って現実の経済制度を分析してゆきます。ま

ず各章を通読してください。その上で、興味を持った章について、第Ⅱ部と同様に、徹底的に読み込んでください。たとえば、第7章であれば、式の展開を自分の手で紙に書いて再現しながら読み直してください。

また、第Ⅲ部にも、第Ⅱ部と同じように、各章末に練習問題がつけられており、巻末にはその解答例が載せられています。しかし、解答例は複雑な現実の経済を説明する唯一絶対の正解ではありません。あくまでも、それぞれの章の著者が考える解答例です。記述的な問題であれば、別の説明の仕方もあるでしょうし、計算問題であっても、別の解き方もありうるでしょう。読者は著者の思考に寄り添って練習問題を学習しても良いですし、別の解法を考えてみるのも良いでしょう。あるいは、仮定を変えた場合に解答がどう変わりうるかを考えることも、良い思考訓練になることでしょう。そうした読み込みによって、本文の内容と練習問題の解答例もしくは自分の考えた解答をただちに再現できるように、徹底的に自分の頭と手になじませてください。それはきっと、皆さんが現実の経済を観察するときの強力な手がかりとなるはずで、身体に馴染むほどに繰り返し学んだ知識だけが、いざ必要だというときに、滑らかに流れ出てくるのです。

読者が第Ⅰ部で大局観を学び、第Ⅱ部を心身に叩き込み、第Ⅲ部の章で取り上げられる各論に関心を持ったならば、編者の望みは達せられたこととなります。

#### 記号の読み方

A: アルファ

$\beta$ : ベータ

$\gamma$ : ガンマ

$\varepsilon$ : イプシロン

$\kappa$ : カッパ

$\Pi$ : パイ (大文字)

$\pi$ : パイ (小文字)

$\varphi$ : ファイ

$\Sigma$ : シグマ (大文字)

$\sigma$ : シグマ

$\log$ : ログ(対数)

$\log_e = \ln$ : ナチュラルログ(自然対数)

$\frac{\partial f(x)}{\partial x}$

:  $f(x)$  の  $x$  についての1階偏微分。計算法は高等学校数学の微分と同じです。

$E[X]$ :  $X$  の期待値。第5章数学付録参照。

$V[X]$ :  $X$  の分散。第5章数学付録参照。